１年 道徳通信 こころのとびら１
京都市立双ヶ丘中学校　Ｎｏ．１２

『パーフェクトであること』（９月２０日）を振り返って・・・

デトロイトのコメリカパーク球場は、世紀の一瞬を見届けようと騒然となっていた。デトロイトタイガースの投手、ガララーガは、その試合一人の打者も出さない完全試合を目前としていた。９回２アウト、ランナーなし。この打者を討ち取れば、偉業達成である。その模様は生中継されていた。最後の打者をゴロに討ち取ったと思われたそのとき、一塁審判の判定は、「セーフ！」。ガララーガの完全試合達成は、誤審によって夢に破れた。全米が「世紀の誤審」と報道して、審判ジョイスを責め立てた。そんなジョイスを真っ先に許したのは、投手ガララーガだったー。

「Nobody is perfect」。完璧な人間なんていないさ。ガララーガの寛容な態度は、ジョイスの心を救うだけでなく、観客のブーイングを拍手に変えた。観客もまたガララーガに救われたと言えるだろう。自分を情けなく思うとき、誰かが失敗をしたとき、何かに憤りを感じるとき、この言葉を思い出し、寛容な態度を忘れないでいたいですね。

＜みんなの感想より＞

●ガララーガがジョイスにメンバー表を渡したことによって観客全員の心が変化したので、ガララーガは心が広い人なんだなと思った。（男子）

●確かに「完璧な人間」というのはいないと思った。どんなにすごい人でも失敗はしてしまう。だからもし失敗をしてしまった人がいるのなら、その時は認めるほうがいいのじゃないかなと思う。（女子）

●今日学んだことを活かして誰かが失敗したときにその人を責めるのではなく温かい気持ちでいようと思った。（男子）

●私も間違えてしまって責められると悲しいし、その時に優しい言葉をかけられると嬉しいので、私もNobody is perfect を言ってみたいです。（女子）

●私がもしガララーガ選手だったらあのような優しい言葉はかけられないと思う。ガララーガが選手は自分より彼のほうが辛いと言えるのが素晴らしいと思う。私も優しい気持ちを忘れないようにしたいと改めて思った。（女子）

●僕は野球をやっています。審判の誤審は多々あります。僕は自分に関わることで誤審をされるとイラっとくることがあります。誤審をされるととても腹がたちます。でもそれをこらえて許すのはすごいと思った。（男子）

●失敗というのはたくさんの人に影響を与える。迷惑もかけるし、心配もかける。失敗をしないとは言い切れないけれど、それをしないためには、しっかりと対策をとっていきたい。また、失敗した人を笑わないようにしたい。（女子）

●今日は全米の野球中継を見て、ガララーガがジョイスに捧げた言葉について、「完璧な人間がいると全て面白くない」と思いました。よくできる人間がいたとすると、何もかも知っていて、みんなひいてしまいそうです。「Perfect Human」は実際にはいないということです。（男子）

●今回の授業ではそれぞれが抱える様々な「理不尽」を学びました。観客も審判も自分の考えに基づいた主張をしていながら、一番固執していないのは意外にもガララーガ本人でした。彼のその器の広さが誰ひとりとして傷つけることなく事を収めたのだと思いました。（女子）